

第1回 潮来小学校・津知小学校統合準備委員会を開催しました

5月24日(水)、「第1回潮来小学校・津知小学校統合準備委員会」が開催されました。当準備委員会は、潮来小学校・津知小学校統合等検討委員会より提出された要望書の要望事項について具体化を図っていくため、両小学校の関係者や地区の代表者により組織されました。「将来を担う子どもたちのため、地域の学校は地域で考え、創っていく」という考えのもと、19名の委員により構成されています。

今回の準備委員会では、委員長に兼平芳男さん、副委員長に飯島康弘さんが選任され、これまでの経過やこれからの進め方・スケジュール、各専門部会の設置や役割分担について説明がありました。委員の皆様からは、統合時期の目安である「令和8年4月まで」に準備を進めていくための課題や注意点などのご意見をいただくとともに、専門部会でより具体化を図っていくことを確認しました。

次回の第2回準備委員会は7月に開催を予定しています。



まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

潮来市の誇れる自然

第79回

霞ヶ浦・北浦で増えてきた魚―スズキ(シーバス)

ここ数年、霞ヶ浦・北浦ではワカサギやエビなどの不漁が続くなかで、なぜか海水魚のスズキ(別名、シーバス)が増えています。夏から秋にかけて漁師さんの定置網によく入ったり、ブランクバス釣りのときに混じって釣れたりしています。プロのルアー釣り師もシーバス狙いで訪れたりしているようです。

スズキは日本沿岸に広く分布する海水魚で、成長とともにセイゴ↓フッコ↓スズキと呼び名が変わる出世魚です。たんばくで独特の旨味があり、和食だけでなく、イタリアンやフレンチなどの食材にもなります。冬にやや沖合の海域で産卵し、春に仔稚魚が沿岸浅所や河口域へと移動し、秋頃まで小魚や甲殻類を食べながら成長します。茨城県内水面水産試験場の調査結果によると、1960年代まではスズキの稚魚が利根川河口から霞ヶ浦・北浦ま

で大量に遡上していたようです。ところが1970年代に常陸川水門という河口堰が閉鎖された後は、ほとんど採れなくなりました。

近年の霞ヶ浦・北浦でのスズキ増加の理由は不明です。東日本大震災後、利根川河口周辺で禁漁が続いたことによる資源回復?、海水温上昇によって生じた再生産や回遊経路の変化?、常陸川水門の開閉操作の変化や魚道の効果?などいろいろな説が出ていますが、どれも憶測の域を出ません。いずれにしても強肉食性のスズキの増加は生態系や他の漁業対象種に影響を及ぼす可能性もあり、今後、湖での生態を調べつつ動向を注視していく必要があります。

茨城大学地球・地域環境共創機構水圏環境フィールドステーション

山川 薫・加納 光樹



北浦で投網を使って捕獲されたスズキ稚魚



北浦で釣獲されたスズキ 体長約50 cm